

巻野：村の施策にも「ふるさとの担い手」というキーワードがありますが、避難を経験した子ども達が今こうして村で働いていることを、広報を通して村民の皆さんにお伝えしたいと思っています。本日はふるさとと飯舘村と向き合いながら、それぞれの状況などをお話できればと思っています。

まず自己紹介から。今年26歳になります。役場で広報を担当しています。母と祖父と飯舘町の実家に住んでいます。

菅野：26歳になりました。いい家でホームで介護士をやっています。草野小学校の近くで一人暮らしです。

渡邊：昨日ちょうど26歳になりました。

新開：菅野・巻野：おめでとう！

渡邊：今は村の商工観光係で仕事をしています。その前の半年間は税務係で働いていました。



みんなの気持ちをもっと知りたくて

## 座談会を開きました

飯舘中学校の仮設校舎で同じ時期に在籍していた4人の方に出席をいただき座談会を開きました。写真の左奥から左回りに、新開茜衣梨さん(草野)、渡邊 梨さん(関沢)、菅野大喜さん(草野)※出身は比曽、巻野 凌さん(飯舘町)※広報担当。

冬になって雪が大変な時には関沢の実家に泊まるうかと。福島市で両親、兄、祖母と暮らしています。

新開：すぐその建設会社、東栄で働いています。3人の子どもの子育て中で福島市から通っています。

質問① どうして今の仕事に就こうと思いましたが。

巻野：元々仙台市で福祉系の大学に通っていて、放課後等デイサービス(障害を持つ子ども達の通所施設)で働き、その後、村に戻って来ました。役場で働く幼馴染みが、会計年度任用職員の募集を教えてくれて応募し、農政第一係、商工観光係で働き、現在は正職員となり、広報を担当しています。

菅野：巻野君の目指すところは。

巻野：役場でもいつか福祉の分野で働いてみたいと思っています。元々最終的には村で働こうと思っていたので、それが早まった感じです。

新開：私は家業なので、いずれここで働くことを考えていました。私自身には特にやりたいことはなく、卒業して、出産して、県庁の避難者支援の部署でも働きました。実家の会社には、事務で入りましたが、向いていなくて。今はダンプに乗っています。

渡邊：私は2年程ドラッグストアで働いていて、去年の6月に辞めて村に戻って来ました。短い期間で転職が続いたことが理由です。父が役場に来た時に職員の方に声をかけてもらい、昨年度の半年間は税務係で、今年度は商工観光係で働いています。

菅野：高校を卒業し福島市の工場に4年ほど勤めましたが、おばあさんの介護が必要になり退職しました。他の家族はそれぞれ事情があり、自分がやるしかないとなったからです。このことがきっかけで、介護を仕事にしようと考えました。

いいいてホームに入ってみたから、遠い親戚とか家族の同級生

座談会は、7月17日、いいたての暮らしをつなぐステーション【3ど】(いいたて移住サポートセンター)で開きました。夕刻、仕事を終えた皆さんにお集まりいただき、和やかにお話していただきました。



や知り合いとかが多くて(笑)。地元だなという感じです。

介護の仕事のやりがい、ずっと笑っていられること。おいしいさん、おばあさんと接して、方言で話して、話し方や考え方のギャップを楽しんでいます。

渡邊：商工観光係の仕事で、4月下旬、「春日部藤まつり」で物販を行いました。「昨年買っておいしかったからまた買って行くね」と立ち寄ってくれる人がいました。村を知っている人も多く、声をかけてくれたり最近のことを聞かれたり、続けることの意味を感じました。今は仕事に慣れることで精一杯ですが、年度が終わる頃には楽しかったと言えるようになりました。

新開：やりがい、会社、村の仕事を受注して、基盤整備や復興事業を担っていること。農業をこれからやる人、すでにやっている人、どちらにとっても環境の整備は大事。その仕事に関われること自体がやりがいです。